

細胞診・HPV検査併用子宮頸がん検診の 浸潤がん予防効果

—浸潤がんが島根県で半減，出雲市では概ね撲滅—

いわなり 岩成	おさむ 治 ¹⁾	かわさき 河崎	あさひ ¹⁾ あさひ	みやもと 宮本	じゅんこ ¹⁾ 純子
にしむら 西村	じゅんいち 淳一 ¹⁾	たか橋 高橋	なりひさ 也尚 ¹⁾	うえだ 上田	とし敏 とし敏
ならい 奈良井	ようこ ¹⁾ 曜子	まつおか 松岡	さおり ¹⁾ さおり	よし野 吉野	なお直 なお直
くりおか 栗岡	ひろこ ¹⁾ 裕子	やまもと 山本	かずひこ 和彦 ¹⁾	もり山 もり山	まさ政 まさ政
よしの 吉野	かずお ²⁾ 和男	おむら 小村	あきひろ ³⁾ 明弘		

キーワード：子宮頸がん，住民検診，細胞診・HPV 検査併用検診，
浸潤がん予防，妊孕能温存

概 要

1. 島根県の子宮頸がん住民検診は1966年から開始された（車検診，細胞診）。
2. 従来型検診の問題点は，前がん病変（CIN 2/3，CIN：異形成）の検出感度が70%で低いうえに，若年受診率が低く，高齢化・固定化していたため，死亡率減少には貢献できたが，浸潤がん防止にはいたらなかった。
3. 子宮頸がんの若年化と，妊婦の高齢化により妊娠年齢層とがん年齢層が重なってきたため，検診の目的は死亡率減少ではなく，浸潤がん防止となった。前がん病変は円錐切除で完治でき，浸潤がん防止，妊孕能温存が可能である。
4. 子宮頸がんの原因がハイリスク HPV の持続感染であることが発見されて，自然史も解明され，さらにハイリスク HPV 検査も安価で可能になった。
5. 高精度で効率的な細胞診・HPV 併用検診を，

2007年に日本で初めて島根県の住民検診で開始した。4年目の島根県では上皮内がんが倍増し浸潤がんが半減した。6年目の出雲市では若年受診率が約70%にもなり，浸潤がんをほぼ撲滅できた。

緒 言

島根県の子宮頸がん検診は，1966年から車検診（細胞診）によって開始され，1984年には老人保健法によって国の事業となって全国で行われるようになった。これまでの検診の目的はあくまで死亡率減少で，細胞診のみによって行われてきた。その従来型検診は死亡率減少には大いに貢献してきたが，細胞診のみによる検診には限界（前がん病変検出率70%）があり，死亡率減少も頭打ちとなった。さらに国の事業から市町村事業となり，一般財源化された1998年頃から検診事業は全国的に氷河期に入って，死亡率は増加していった（特に30から40歳代を中心とする若年者）。2004年から厚労省のガイドラインが2年間隔受診となったことも追い打ちをかけた。

その頃世界では，子宮頸がんの原因がハイリスク HPV の持続感染であることがツア・ハウゼンによって1983年に発見されてから，子宮頸がんの

Osamu IWANARI et al.

1) 島根県立中央病院産婦人科

2) 吉野産婦人科医院 3) 小村医院・島根県医師会長

連絡先：〒693-8555 出雲市姫原4-1-1